

さんは「誰かが体調を壊せばサポートし、助け合いながら進めてきた」と話します。

雷斗さんは4年前に就農。両親や祖母を見て育ち、いずれは自分も携わるといふ思いが幼い頃からありました。積極的に地域の農家の取り組みを学び「同じ品種でも人によって育て方が違う。実際に試して合うものを模索している」と経験を積み、その姿を見守る真之助さんは「息子も孫も受け継いでくれてうれしい。ひ孫も生まれて幸せ」と笑顔ののぞかせます。

池田地区は昔から地域のつながりや学校との連携が強いのが特色。木内さんは池田中学校から依頼を受け、リンゴ栽培を体験する「リンゴ学習」を約15年前から授業の一環として担っています。生徒は花摘みから袋掛け、収穫までの一連の作業を体験。生徒が興味を持って熱心に取り組む姿に木内さんは笑顔を見せ、「この子たちが大人になつたときに故郷を思い出し、地元のリンゴを多くの人に伝えていってほしい」と話し、「お客さんや地域に喜ばれているのも家族のおかげ」と感謝しています。



1



4



2

1.リンゴ学習で池田中学校1年生と記念写真。リンゴをかじる楽しいポーズで和やかな場に(中央・雷斗さん) 2.立派に育ったリンゴに感激 3・4.丁寧に絵文字シールを貼り、収穫を待つ



側果を生かした栽培  
凍霜害を乗り越える

栗林りんご園 ー利根町追貝ー  
利根果樹部会会長 栗林寛さん

利根町では4月中旬から下旬にかけて、特に追貝、平原、多那地域で降霜による被害がありました。

私の園では中心果(花の中心部で果実がなる部分)の8~9割が被害に遭ったため、その周りの側果を選別し、質を落とさないように栽培を続けました。収穫量は例年の半分程度で、リンゴの表面には「サビ」と呼ばれるざらつきが出ましたが、味や品質への影響はなく良いものができました。

異常気象のほかにも、利根町は鳥獣による被害が深刻です。IT技術の活用など行政と農家が連携し、動物を近寄らせない対策に取り組むことが求められます。また、この地域に関係を持つ人を外部から呼び込むなど、果樹の生産を通してまちづくりを進めなければならないと思います。



出雲唯人さん ー池田中1年ー

楽しく体験  
農家さんの努力実感

普段何気なくリンゴを食べていましたが、手間暇かけて育てる農家さんの努力やありがたさを実感できました。木内さん一家は皆明るく、難しい作業も丁寧に教えてくれるので、最後まで楽しむことができました。自分たちで作ったリンゴを、じっくり味わいたと思います。



吉野穂花さん ー池田中1年ー

絵文字入りリンゴ  
出来上がりが楽しみ

栽培の一連の流れを学ぶ中で印象に残っているのが、日光を利用してリンゴに文字や絵を入れる作業でした。上州真田氏の家紋「六文銭」や「寿」などのシールを切り抜き、一つ一つ丁寧にリンゴに貼りました。収穫時にはくっきりと浮かび上がるので楽しみです。